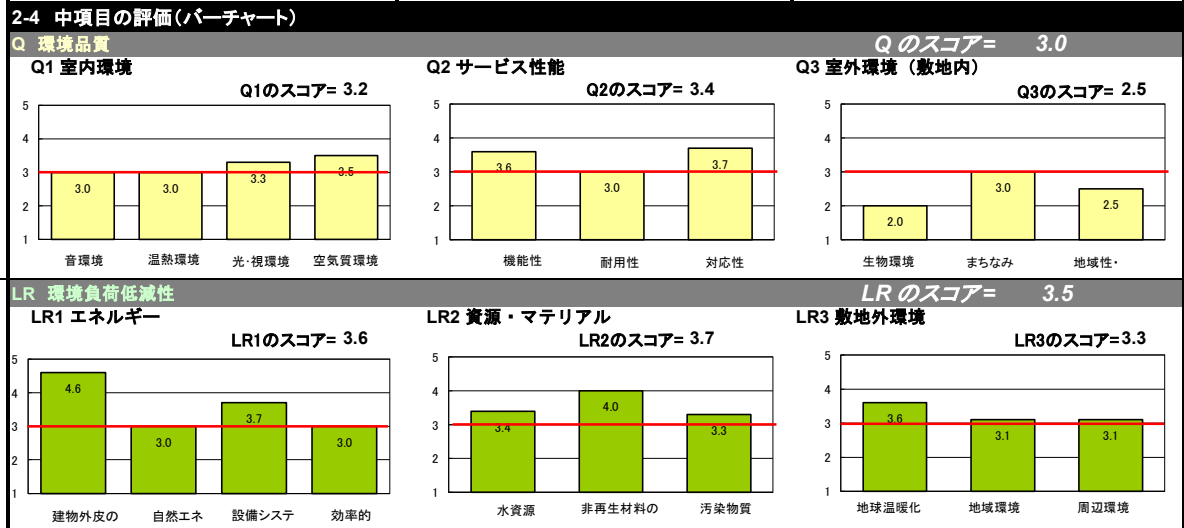
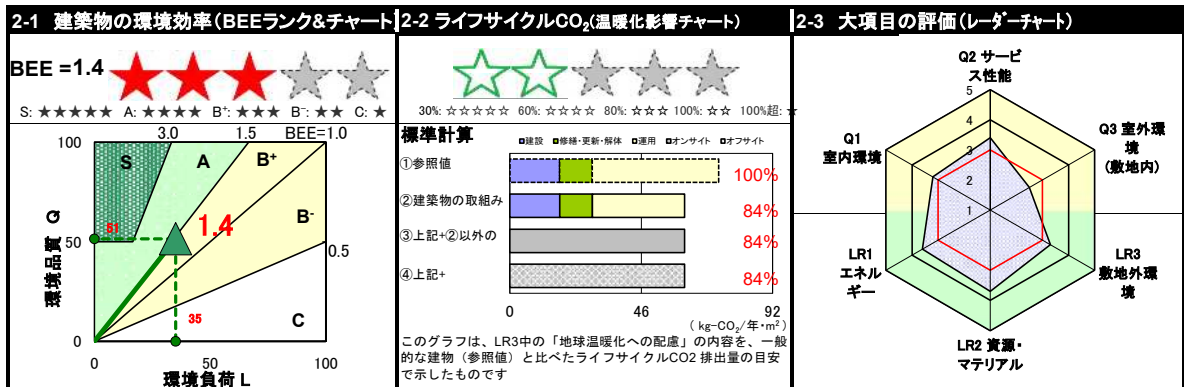


CASBEE® あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	フジパン(株)豊明工場 事務所棟増築工事	階数	地下0階地上4階
建設地	愛知県豊明市新田町井ノ花18番	構造	S造
用途地域	準工業地域 防火地域:指定なし	平均居住人員	139 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年11月 予定	評価の実施日	2026年1月23日
敷地面積	58,248 m ²	作成者	的場 浩三
建築面積	1,290 m ²	確認日	2026年1月23日
延床面積	5,129 m ²	確認者	中平 伸二



3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>20.0 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	20.0 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	20.0 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
なし

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
フジパン(株)豊明工場事務所棟増築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
人感センサー設置								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
F☆☆☆☆を70%以上採用								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
Gigabit通信に対応								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観 (天井高)								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
リフレッシュスペース:8.6%								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
既製品笠木水切りの採用、各スパンごとに天井点検口設置 等								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震・制震・制振								
1 耐震性(建物のこわれにくさ)								
2 免震・制震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								
床、壁、天井仕上材:20年								
給水管:PE管、排水管・通気:VP管 Eは不使用								
2.4 信頼性								
1 空調・換気設備								
2 給排水・衛生設備								
3 電気設備								
4 機械・配管支持方法								
5 通信・情報設備								

3 対応性・更新性				0.2	3.7	0.29	-	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり				0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			階高: 4, 100以上		5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率: 0.14	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.6	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性		②	天井懐の確保		4.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17	-	-	-
3 電気配線の更新性			ケーブルラック配線		3.0	5.0	0.11	-	-	-
4 通信配線の更新性			ケーブルラック配線		3.0	5.0	0.11	-	-	-
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22	-	-	-
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)						0.34	-	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出		独自③			2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性							-	-	-	3.5
LR1 エネルギー						0.40	-	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPIm=0.84	3.0	4.6	0.26	-	-	-	4.6
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.16	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEIm=0.73	3.0	3.7	0.38	-	-	-	3.7
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル						0.30	-	-	-	3.7
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			節水コマ水栓、節水型便器 採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	4.0	0.63	-	-	-	4.0
2.1 材料使用量の削減		② 独自	セレクトベース、QLデッキ合成スラブの採用		4.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用						3.0	0.25	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用						3.0	0.21	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				エコマーク商品: 再生クラッシュラン、ノンフロン断熱材、便器などの衛生器具	3.0	5.0	0.21	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	LGS下地、OAフロア採用	3.0	5.0	0.25	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.5	0.68	-	-	-	
1 消火剤					-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			押出法ホリスチレンフォーム、硬質ウレタンフォーム(ノンフロン材)採用		4.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境						0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率84%		3.6	0.33	-	-	-	3.6
2 地域環境への配慮				0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.7	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自	透水性アスファルト舗装を採用		4.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制		独自	出入口に車路管制設備を採用		5.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音		独自			3.0	1.00	-	-	-	
2 振動		独自			-	-	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制					3.0	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制					3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			「光害対策が「ドライン」のファクリットの過半を満たしている、広告物照明なし		4.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

フジパン(株)豊明工場 事務所棟増築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				3.6
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	4.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.10	外構緑化:20%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 フジパン(株)豊明工場 事務所棟増築工事

計画上の配慮事項	
総合	サービス性能の向上を確保した建物を設計することに努めた。 資源・マテリアル性に配慮した材料を選択し、環境負荷低減に努めた。 省エネルギー性能の配慮に努めた。
Q1 室内環境	照明制御:人感センサー設置 仕上材ホルムアルデヒド放散量:F☆☆☆☆を70%以上採用
Q2 サービス性能	リフレッシュスペース:8.6% 床、壁、天井仕上材更新必要間隔:20年 配管の更新必要間隔:給水管はPE管、排水・通気管はVP管 Eは不使用 耐震クラス:B 階高:4, 100以上 壁長さ比率:0.14 電気・通信配線:ケーブルラック配線
Q3 室外環境(敷地内)	特になし
LR1 エネルギー	BPI _m =0.84 BEI _m =0.73
LR2 資源・マテリアル	節水コマ水栓、節水型便器 採用 リサイクル材の使用:エコマーク商品(再生クッション) 部材の再利用:LGS下地、OAフロア採用 断熱材:押出法ポリスチレンフォーム、硬質ウレタンフォーム(ノンロン材)採用
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率=87% 「光害対策ガイドライン」のチェックリストの過半を満たしている 広告物照明なし
その他	特になし